



国際ロータリー第2510地区
第15回全国 RYLA 研究会実行委員会

国際ロータリー第2510地区 ガバナー事務所
札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F
T/011-207-2510 F/011-207-2512
rid2510@pxva.ne.jp

2023 RYLA SAPPORO

第15回 全国 RYLA 研究会 報告書

2023.5.20~21 @ 札幌グランドホテル





第15回 全国RYLA研究会 札幌会議 報告書

Contents

RI 会長からのメッセージ	01
大会委員長	02
第15回全国 RYLA 研究会 プログラム	03
全国青少年奉仕委員長会議 次第	04
RI第2510地区 RYLA セミナー報告	05
基調講演	08
特別講演	15
青少年奉仕委員長会議	23
全国青少年奉仕委員長 (RYLA委員長) 会議・議事録	24
【参考資料】	25
全校青少年奉仕委員長 (RYLA委員長) 会議・参加者	27
分科会	31
分科会 A	32
分科会 B	34
分科会 C	36
これからのRYLAと危機管理	37
大会参加者数	41
第15回全国 RYLA 研究会 役員	42
第15回全国 RYLA 研究会 ホストクラブ委員会	43
アンケート調査報告	44
会場	56

RI会長からのメッセージ



Jennifer Jones
President, 2022-23
Rotary International
T +1-847-866-3025
jennifer.jones@rotary.org



22 April 2023

Greetings to All Participants at the Japan RYLA Institute,

Welcome to the 15th All Japan RYLA Institute. I believe that RYLA is one of the most important parts of Rotary. It provides the leaders of tomorrow with the ability to become better people, while developing their skills to help other people. There is no better way to begin their lifelong commitment to Service above Self.

This Institute is a wonderful opportunity for all participants to expand their networks and knowledge of the opportunity RYLA presents. For the RYLA participants, it builds awareness about what Rotary can do for them, while learning about all the good Rotary does in the world. For members of Rotary, this Institute can inspire them to place a high priority on nurturing an enduring relationship with the next generation.

Thank you so much for taking your time to be a part of this extraordinary experience and for sharing your Rotary stories across Japan and the rest of the world. This is how we Imagine Rotary and inspire the world to focus on our future.

Warmest Regards,

Jennifer Jones

Jennifer Jones
President, Rotary International 2022-23

第15回全国 RYLA 研究会にご参加者の皆様へご挨拶申し上げます。第15回全国 RYLA 研究会へようこそ。私は、RYLA がロータリーの最も重要な一部分であると信じております。

RYLAは、明日のリーダーとなる人々に、より良い人間になるための能力を提供し、同時に、他の人々を助けるためのスキルを身につけさせるものです。明日のリーダーとなる人々に他者を助けるスキルを磨くと同時に、より良い人間となるための能力を提供します。生涯にわたる超我の奉仕との関わりの第一歩としてこれ以上の方法はありません。参加者全員にとってこの研究会は、そのネットワークを拡大し、RYLAが提供する機会についての知識を深める素晴らしいチャンスです。

RYLA参加者にとっては、ロータリーが世界で行っているあらゆる良いことについて学びながら、ロータリーが自分達に何をしてくれるのかについて認識を深めることができます。ロータリーの会員にとっては、この研究会が、次世代との永続的な関係を育むことに高い優先順位を置こうと強く思うきっかけとなるでしょう。このような特別な体験のために時間を割いていただき、また、日本や世界各地でロータリーの話を持共有していただき、本当にありがとうございます。私たちはこのようにロータリーをイメージ「Imagine Rotary」し、私たちの未来に目を向けるよう世界に働きかけているのです。

2023年4月22日
2022-23年度 国際ロータリー会長
ジェニファー・ジョーンズ

大会委員長



Yoshio Sato
佐藤 芳郎

所 属

R I D 2 6 9 0 岡山南ロータリークラブ

職業分類

公認会計士

略歴 / ロータリー歴

1 9 7 2	慶応義塾大学 経済学部 卒業
1 9 7 4	慶応義塾大学大学院 商学研究科 会計学専攻 修了
1 9 7 4 - 7 9	アーサー・アンダーセン・アンド・カンパニー 勤務
1 9 7 9 - 8 6	等松・青木監査法人 勤務
1 9 8 6 -	公認会計士事務所 開設
1 9 8 9	岡山南ロータリークラブ入会
2 0 0 0 - 0 1	幹事
2 0 0 5 - 0 6	副会長・理事
2 0 1 0 - 1 1	会長・理事
2 0 1 5 - 1 6	R I 第 2 6 9 0 地区 地区ガバナー
2 0 1 6	R I 第 3 ゾーン理事指名委員・委員会招集者
2 0 1 6 - 2 1	日本のロータリー百周年記念事業等委員会委員
2 0 1 6 - 1 7	R I 第 2 6 9 0 地区 P H S コーディネーター
2 0 1 7 - 1 8	R I 第 3 ゾーン ロータリー財団地域コーディネーター補佐
2 0 1 9	R I 研修リーダー
2 0 1 9 - 2 2	R I 第 3 地域 恒久基金 / 大口寄付アドバイザー (E / M G A)
2 0 2 0 - 2 2	(公財) 米山記念奨学会 理事
2 0 2 2 - 2 4	R I 理事
2 0 2 2 -	(公財) ロータリー日本財団 副理事長

ロータリー財団	A K S (管理委員会サークル)
	ベネファクター
	ポール・ハリス・ソサエティー メンバー
	「ロータリー平和センター」冠名基金設立
	「水と衛生」冠名基金設立
	「シェア」冠名基金設立
	遺贈友の会 (レベル2)

第73回米山功労者メジャードナー

第15回全国RYLA研究会プログラム

大会テーマ

「RYLAの真髄」

DAY 1 -5.20-

- 12:30 開場、登録受付
13:00 開会点鐘 石丸 修太郎 (D2510 ガバナー)
国歌「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」
開会挨拶 羽部 大仁 (D2510PDG)
大会会長挨拶 佐藤 芳郎 (RI 理事 D2690)
13:20 RI 会長挨拶
13:25 2510 地区 RYLA セミナー報告
13:50 基調講演「ロータリーにおける RYLA の役割」
三木 明 (国際ロータリー財団管理委員)
14:20 法話 羽部大仁 (D2510PDG)
15:00 特別講演「RYLA の意義と運営」
安行 英文 (D2680GE)
16:00 全国青少年奉仕委員長会議
17:00 記念撮影
17:30 終了 バス移動 (懇親会場へ)
18:00 懇親会 (サッポロビール園)

DAY 2 -5.21-

- 9:00 開会
9:15 分科会 A：安行 英文・B：黒田 建一・C：田中 賢一
10:25 分科会テーマに基づくフォーラム 安行英文、
他各グループリーダー
11:05 危機管理 黒田建一 (RIJYEM 危機管理委員 D2680)
講評 安平 和彦
謝辞 羽部 大仁
11:35 閉会点鐘 石丸 修太郎
昼食 (※12時までに全行程を終了予定)

全国青少年奉仕委員長会議 次第

日 時

2023 年 5 月 20 日 (土) 16:00 ~ 17:00

会 場

札幌グランドホテル本館 2 階金枝
060-0001 北海道札幌市中央区北 1 条西 4 丁目
T/011-261-3311
<https://www.granvista.co.jp/facilities/grand1934/>

次 第

16:00 開会宣言：実行委員長 羽部 大仁 PDG
開会挨拶：ホスト地区ガバナー 石丸 修太郎

議事進行：田中 賢一 (RIJYEM 研修部門委員 RYLA 担当)

16:05~16:35 「全国 RYLA 連絡会」について説明
実行委員会、委員長会議、運営委員会、RIJYEM の業務と関連性
黒田 建一 (RIJYEM 研修部門委員 RYLA 担当)

16:35~16:38 「運営委員と地区 RYLA 委員長合同会議開催について」
黒田 建一 (RIJYEM 研修部門委員 RYLA 担当)

16:38~16:40 「次回・次々回全国 RYLA 研究会開催地区について」
札幌会議実行委員長 羽部 大仁 PDG

16:40~17:00 ホスト地区挨拶 D2530 (案) 実行委員長 芳賀 裕 PDG
プレゼン動画

17:00 閉会挨拶：実行委員長 羽部 大仁 PDG

RI 第 2510 地区 R Y L A セミナー報告



国際ロータリー第2510地区 RYLA 委員長 斉藤朋博

2510地区RYLAセミナー

国際ロータリー第2510地区
RYLA委員長 斉藤朋博

プロフィール



2011年 札幌南ローターアクトクラブ
2014年 札幌南ロータークラブ
2018年 香川豊小豆島（余島）ジャパンライラセミナー参加
2019年 ローター研究会 講演
2020年 大分地区大会 講演、札幌南ロータークラブ 幹事
2023年 2510地区RYLA委員長、全国RYLA研究会 幹事

2018年がその後、人生にこんなにも変化を及ぼす年になるうとは思っていませんでした。余島で RYLA と出会い、研究会、地区大会、現在に至ります。

RYLAとの出会い



RYLA との出会いですけれども、RYLA は参加する青少年のみならず、関わるロータリアンにも非常に大きな影響を与えることが出来る取り組みであると感じております。なぜ RYLA はこんなにも私を魅了するのか。それは今井鎮雄元 RI 理事や、深川純一 PDG の哲学、熱い心があり、それを受け継ごうとする 2680 地区の皆様の存在があるからだと思います。熱い心は若者に伝播し、それがまたロータリアンに伝播いたします。この連続こそが RYLA の魅力であると感じております。それでは本題に入らせて頂きます。

2022-23年度RYLAセミナー IN 青少年山の家

「逆境を越えるリーダーシップ」

開催場所 : 札幌市青少年山の家（協賛）
日時 : 5月12日～14日（初 2泊3日開催！）
参加人数 : 13名（2グループ）
ロータリアン : 31名（ガバナー、ガバナー・ミニ、ガバナー・ミニ、デジネット、バスター・バスター、東山奨学会委員長、ボリオ・委員長、ローターアクト委員長、国際奉仕委員長など）
カウンセラー : 青少年奉仕委員長、ガバナー補佐、RLI 委員長、RYLA 委員
予算 : 一般、特別地区補助金428500円、財団補助金478000円
参加費 : 5000円

プログラム

7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
			バス移動			開校式	RCとRYLA	地区委員セッション	アイスブレイク	夕食	入浴	出村 DGN 講話	親睦会	
ヨガ	羽部 PDG 法話	（株）APR グループ「コロナを乗り越えるリーダーシップ」	バス移動	フリークライミングビザ窯体験			バス移動	想定の時間	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
ランジョウ	玉井 DJ 講話	フォーラム	開校式											

1 日目は RC、RYLA を知る事、新たな出会いと親睦を深める事を重要視しております。
2 日目は外部講師によるリーダーシップ講演、レクリエーション、思索の時間、カウンスルファイアで自分と向き合った上で、フォーラムに向かいます。

3 日目はフォーラムを通して3日間の気づきをまとめていく構成となっております。

一日目～新しい出会いと親睦～



今井鎮雄先生の石碑にある「人と出会い」の部分であります。委員会活動報告～4 委員長に参加頂く事で、参加するロータリアンを増やして、認知度を高めるねらいがあります。アイスブレイクでは、紐を使って蜘蛛の巣を作るという課題が与えられました。ここで印象的だったのが、「おとなしそうな女性」が実は蜘蛛マニアだという事を告白し、こだわりのある蜘蛛の巣をチームでつくるためのリーダーシップを発揮した事です。出村ノミニの講話では、①リーダーシップとは何か？ A 周りをまとめあげ、引っ張るスキル、私もそう思う、私も、私も。という回答が多く聞かれました。

二日目～グループワーク、ディスカッション～



二日目は「神と交わり」ですから、皆様ご存知の、羽部バスターガバナーの法話からはじまります。その後、外部講師をお呼びして講義をしていただきました。すすきで 70 店舗以上経営している（株）APR グループ、35 歳で社長を務める青木氏が「いかにリーダーシップを発揮してコロナを乗り越えてきたのか」というお話を伺いました。質疑応答では、次々と積極的に質問が出て、参加者の反応の良さに驚かされました。



少し疲れて来た頃、大自然の中で一人物思いにふける、思索の時間を過ごして頂きました。これも 2510 地区では初の試みであり、これが印象的だったという参加者の声が得られました。カウンスルファイアでは、少し燃えすぎておりますが、自身と向き合う時間を過ごして頂き、余島で習った「我はふくろう」を歌いました。この歌を聞かされた時に、余島で過ごした感動的な時間が蘇ります。その後フォーラム発表の準備へと進んで参ります。

三日目～未来のリーダーへ～



三日目はいよいよ「愛の火のもえるところ」でございます。玉井デジネットにロータリーにおけるリーダーシップの講話を頂いた後に、フォーラムへと移って参ります。フォーラムでは、各グループ人数が 6～7 名ですから、全員で役割分担を行って発表する形となりました。初日の夜、出村ノミニから投げかけられた質問「リーダーシップとは何か」その時は「まわりをまとめ上げ、引っ張っていく事」と一様に答えていましたが、フォーラムを通して、様々なリーダーシップがある事に気が付いてくれたようです。



まだまだ小さな RYLA セミナーですが、一人一人の参加者を大切に、運営していきたいと思えます。

参加者の声

- ・リーダーとは「周囲をまとめて引っ張るタイプ」というイメージが強かったが、サポート、倫理観、行動力、寛容さなど様々なリーダー像があることに気が付いた。
- ・相手の話を受け入れる事の大切さを感じた。
- ・実際に活躍する経営者の考え方、判断力など刺激的だった。
- ・漠然としていたリーダー像が具体化した。
- ・信頼し、信頼される事がリーダーにとって大切だと感じた。
- ・思索の時間でひとり考えた時間が印象的だった。
- ・ロータリーの奉仕活動に興味を湧いたのでローターアクトに参加したい。

以上のように参加者から頂いたコメントを見ると、グループへの働きかけを行う中で、多様なリーダーシップに気がつき、RYLA が目指す全人的発達につながっている事がわかります。

2510地区の課題

- ①RYLAセミナーの認知度
- ②RYLAに関わるロータリアンの不足
- ③RYLA学友会の活動

①2510 地区では RYLA の認知度は低く、参加者集めに苦勞する事が多くあります。今年度はガバナー公式訪問で RYLA の話をして回って頂きましたが、それでもやっと 13 名でした。頻繁に参加頂いている米山奨学生、学友からは金曜が絡むと研究などで参加できないと断りを受けてしまいました。

②①ともつながりますが、関わるロータリアンの不足が挙げられます。2680 地区を見ると一生 RYLA をやっていこう！夫婦でカウンセラーをやるうという先生が多く見受けられます。2510 地区をみると終身 RYLA 委員は今のところ、私と前委員長の西方さん、前々委員長の長田さんくらいでしょうか。RYLA セミナーの認知度を高め、意義あるセミナーを開催する事で、「終身 RYLA 委員」を増やしていく事が急務であります。

③最後に RYLA 学友会では前委員長の西方年度に立ち上げられました。本日 PC 担当を担っていたでいる佐藤直輝学友会会長にご尽力いただき、学友の集いの開催にこぎつけた所であります。今年の 9 月にも開催し、学友会の求心力を高めていく事、RYLA セミナーの運営に力を貸して頂く事、その他の活動や、ローターアクトに迎える事につなげていきたいと思っております。本日皆様の貴重なお時間を頂き、ここに立たせて頂いたのは、「皆様に知って頂き、是非ご意見を頂きたい」という思いからでございます。どうか今後の 2510 地区の RYLA 発展のためにご指導頂きますようお願い申し上げます。ご清聴いただきありがとうございました。

基調講演・特別講演

基調講演「ロータリーにおける RYLA の役割」



Akira Miki

三木 明

所 属

D2680 姫路ロータリークラブ

職業分類

歯 科

略歴 / ロータリー歴

1975	大阪歯科大学歯学部卒業
1980	三木歯科診療所開設
1981	姫路ロータリークラブ入会
1999-2000	姫路ロータリークラブ会長
2007-08	第 2680 地区ガバナー
2010-11/2015-16	地区研修リーダー
2010-14	第 3 ゾーン・ロータリーコーディネーター補佐
2013-15	国際ロータリー研修リーダー
2013/2016	規定審議会地区代表議員
2018-20	国際ロータリー理事
2020-21	ロータリー財団管理委員会特別アドバイザー
2021-22	平和のための大口寄付推進計画委員会副委員長
2021-22	インターナショナル・ポリオプラス委員
2021-25	ロータリー財団管理委員

アーチクランフソサエティ会員、ロータリー米山記念奨学会メジャードナー



基調講演・特別講演

**第15回全国RYLA研究会
RYLAの真髄**

札幌グランドホテル
2023年5月20日

ロータリー財団管理委員
元RI理事 三木明
RI第2680地区RYLA顧問



皆さんこんにちは。第15回全国ライラ研究会に全国から大勢の皆様がお集り下さり、ありがとうございます。私は、ロータリー財団管理委員で元RI理事をしておりました、第2680地区のライラ顧問の三木明でございます。

RYLAとは
Rotary Youth Leadership Awards

ロータリー青少年指導者養成プログラム

**リーダーシップを発揮したい、
自分の可能性を広げたい、
世界を変えたい……。**

そんな考えを実現するための第一歩となるのが、このプログラム（RYLA）」です。ロータリーは、次世代のリーダーを育てることの大切さを感じ、信じています。ロータリークラブ、または地区が実施するこのプログラムでは、教育の機会を広げ、若い世代のリーダーがリーダーシップのスキルを身につけ、奉仕の価値観を学べるよう応援します。

RYLAは、
若い世代を対象とした短期集中型の
リーダーシップ育成プログラムです。

クラブ、地区、または多地区合同で運営され、
参加者が新しいスキルを学びながら、地域社会と
関わり、個人的・職業的に成長できる機会となります。

RYLAの運営者は、参加者の対象年齢、地域社会の
具体的なニーズや関心に合わせて、
行事の内容と形式をカスタマイズできます。

ロータリーが親睦の内にのずから
奉仕の心を生み出したように、このライラも
受講生の自律と親睦の内に、
参加者の心の中に、温かい奉仕の心・
愛の火が灯り、地元地域へ帰って実践
してくれることを期待しているのであります。

愛の火がともるか否かは、
受講生次第です。

地元地域へ帰ってからともるかも知れない、
3年後かも知れない、5年後かも知れない、
10年かかるかも知れない。
或いは永久にともらないかも知れない。

RYLAプログラムの目的：

- ・若者のリーダーシップスキルを磨き、
地域に貢献している若者を表彰すること
- ・若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育み、
ロータリーを通じた奉仕の機会へと導くこと
- ・若者のリーダーシップ育成を支援することにより、
ロータリーの青少年奉仕を実践すること

RYLAを実施するメリットは・・・

**未来の担い手を育てる：地域や世界の課題に取り組む
ために、多くの若いリーダーが求められています。**

**ロータリーの五大奉仕部門の一つである青少年奉仕は、
リーダーシップ育成を通じて
若者の成長を促すことを重視しています。**

RYLAは、地元の有望な若者を育て、青少年奉仕を実践する機会となります。このような支援を通じて、若者たちは自分の意見を形づくり、行動に移すためのスキルを磨くことができます。

つながりを築く

RYLAは、ロータリーの若い参加者が
互いにつながり、
協力しあう絶好の機会です。

ROTEXやローターアクトにも参加してもらい、このようなつながりを促しましょう。ロータリーについて学びながら、社会貢献をめざす仲間たちと出会うことができます。

参加者の基盤を広げる

世界で毎年5万人以上がRYLAを
通じて初めてロータリーに参加します。

RYLAは、若いリーダーと関われるだけでなく、
ロータリーとの生涯にわたるつながりを育む
素晴らしいチャンスとなります。

ロータリーを通じて得られるさまざまな機会について、RYLA参加者にしっかりと理解してもらい、ローターアクトクラブやロータリークラブへの入会を勧めましょう。

学友の参加（RYLArian）

RYLA学友（RYLArian）は、
RYLAプログラムの企画、
広報、セミナー実施において力になります。

特にRYLA学友は、自身のRYLAでの
経験で得た教訓や改善点を提供できる
貴重な存在となります。

RYLAは、学友がロータリーと再びつながりを築く絶好の機会となります。学友のスキルや経験に応じて、委員会、行事の手伝い、ワークショップの進行役やパネリストなどを担当することに関心をもつかもしれません。

ネットワークを築く

RYLAを初めて実施する場合、
ほかのクラブや地区から過去の経験や
アドバイスをシェアしてもらいましょう。

RIJYEM（国際ロータリー青少年交換多地区合同事業）
では、各地区で開催されたRYLAを
どのように行ったかのデータを集積しています。

事務処理はこのRIJYEMで行うことができますので、大いに活用してください。RYLAのネットワークを築くために、地元のリーダー、学校、青少年団体とも連絡を取ってみましょう。手配に関するアドバイス、参加者の募集を手伝ってくれることでしょう。

予算と資金調達

行事の計画における最初のステップは、予算を立てることです。
できるだけ詳細に予算を立てましょう。

会場費、食事費、宿泊費

会場使用料に加え、食事代、宿泊費などの
関連費用も予算に含めます。

交通手段

会場へのアクセスの詳細を参加者に知らせます。

各項目にかかる費用、各項目の明細、必要な理由、入金日と支払日を記載します。セミナー終了後の会計報告は必ずしなければなりません。
交通手段：会場へのアクセスの詳細を参加者に知らせます。お招きした講師の交通費も調べておかねばなりません。

講師の講演料

無料で引き受けてくれる人もいますが、その場合でも、
交通費や拘束時間の埋め合わせとして記念品や謝礼を
渡すこともあります。

感謝の気持ちを忘れてはなりません。

保険

クラブまたは地区が加入している保険を調べ、
参加者全員のために保険契約をしなければなりません。

開催費用負担

ほとんどの場合、セミナー参加者の費用は
クラブが負担します。

関係するロータリー会員は自分で支払います。
地区資金の一部をRYLAプログラムに充てることもできます。

食事

食事制限：健康面の問題、アレルギー、宗教上の理由、
個人的な信条によって食事制限が必要かどうかを参加者に
事前に尋ねましょう。

医療へのアクセス

緊急事態：医療上の緊急事態が起きた場合の
対策を決めておきます。

応急手当：会場に医師など医療関係者が
待機するのが適切です。

基調講演・特別講演

RYLA スケジュールの作成

予算を立てる
会場を選ぶ
移動手段を手配する
講演者を確保する
プログラムの内容を確定する
カリキュラムを作る
参加者の募集と選考を行う
行事で使う資料を作る
参加者登録の準備をする
進行役と引率者の研修を行う
食材またはデリバリーを手配する

RYLA 魅力的な内容の計画

RYLAは、若者が地域社会に参画し、個人的・職業的に成長する機会を提供することで、リーダーシップスキルの育成を支援します。

どのようなトピックを取り上げ、またそれをどのように行うかは、運営者が自由に決めることができます。参加者のニーズと関心を優先してください。

RYLA 倫理的リーダーシップ

倫理的リーダーシップの要素について説明する
(敬意、奉仕の心、コミュニティ、正義、誠実さなど)。

倫理的リーダーシップが自分にとってどのような意味を持つかを考えてもらい、自分自身の倫理規範を作成してもらいましょう。

RYLA 評価アンケートの結果や寄せられた意見の活用

RYLAセミナーの成果を評価し、参加者からの意見や感想を集めることは、今後の開催にあたっての参考になります。過去のRYLAの評価アンケートに寄せられた意見や感想に基づいてカリキュラムを修正することで、時代に沿ったトピックを選ぶことができます。プログラムの企画に参加者や開催者の意見を反映することが重要です。

Rotary 多様性、公平さ、インクルージョン (DEI)

ロータリーで私たちは、持続可能な良い変化を生むために人びとが手を取り合って行動する世界というビジョンの実現には、多様性があり、公平で、インクルーシブな文化をつちかうことが不可欠であると理解しています。私たちは多様性を重んじ、すべての背景、年齢、民族、人種、肌の色、障害、学習スタイル、宗教、信条、社会経済的立場、文化、婚姻状況、使用言語、性別、性的指向、ジェンダー自認だけでなく、異なるアイデア、考え、価値観、信念を持つ人びとによる貢献を大切にします。

Rotary 多様性、公平さ、インクルージョン (DEI)

多様性は、ロータリーの長年にわたる中核的価値観の一つであり、最大の強みです。ロータリーの文化が多様性、公平さ、インクルージョンを体現していくには、多くのことを行う必要があります。RYLAでは、DEIへのコミットメントを強化し、RYLAに関わるすべての人の貢献を大切に、公平さを助長し、人びとをより温かく迎えるインクルーシブな文化を創り出すことを目指します。

ロータリーは、RYLAの世界が多様で、公平で、インクルーシブな組織となることを望み、またそうあるべきであると考えています。ロータリーは、RYLAに開放的なコミュニケーションを育み、学びあい、支えあうことのできる環境を作りだすことに全力を傾けています。多様性、公平さ、インクルージョンは、RYLAの世界、ロータリーの世界において重要な問題です。

DEIの行動規範

この行動規範は、誰にとっても協力的で、前向きで、健全な環境をロータリー会員が築き、維持するのを支える枠組みとなるものです。RYLAにおけるDEIの行動規範は参加者全員に次のことを求めています

- ・他者を尊重する言葉を使う
- ・サポートを示す
- ・温かく迎え入れるインクルーシブな環境を助長する
- ・多様性を重んじる

RYLA 形式

RYLAは多くの場合、講演、バズセッション、フォーラムなどを組み合わせて構成されます。講演、少人数グループでの活動、体を動かすレクリエーション、などをバランスよく組み合わせて、集中力を持続できるようなプログラムを考えてください。

さまざまな状況下で学んでもらうことにより、多様なリーダーシップスタイルを持つ参加者が独自の能力を発揮できるでしょう。

RYLA 親睦の熟成

参加者同士が互いを知り合い、ネットワークを広げ、友人を作る時間を設けてください。この時間を設けることで、参加者が打ち解け、活動での協力がスムーズになります。自分自身を見つめるための「思索の時間」を設けることも有効です。セミナー終了後にも参加者が同窓会を開いたり、ソーシャルメディアなどでつながりを保つ方法も考えておきましょう。

RYLA 講演

地域社会のリーダー、大学の教育者、ロータリー会員を講演者として招きましょう。テーマに沿った講演を盛り込むことにより、参加者のやる気を引き出し、多くの事を学ぶことができます。

講演のトピックには以下のようなものがあります。

- ・問題や障害をどのようにして乗り越えてきたかという講演者自身の体験談
- ・受講生のリーダーシップスキルを生かすためのアドバイス
- ・奉仕プロジェクトで大きな成果やインパクトをもたらすための実用的アドバイス

RYLA バズセッション

バズセッションでは、参加者が少人数に分かれてテーマに沿った話し合いをします。参加者自身にリーダー役を任せ、リーダーシップスキルを発揮してもらいましょう。

カウンセラーがバズセッションの説明や質問への回答といったサポートを行うこともできます。

RYLA カウンセラー

カウンセラーの役割は、RYLAの実施において最も重要な役割を担っています。

プログラムや行事期間中、すべての場面で受講生との関わりを持ち続ける必要があります。

カウンセラーの仕事は、受講生の監督からバズセッション、フォーラムのサポート、食事、宿泊、健康管理など多岐にわたります。

全参加者が常にそろっており、活動に必要なものや資料を持っていることを確認します。宿泊を伴う場合、不適切な行動を防ぎ、助けを必要とする緊急事態などに対応するために、カウンセラーがしっかりと監督する必要があります。

- ・食事の開始時間に参加者がそろっていることを確認したり、食器の後片付けを手伝ったりします。
- ・各活動の前に、使用する会場と資料などを準備します。
- ・講演のサポート：講演に必要な設備や備品の事前確認、記録の確認などをします。講演者に快適な経験をしてもらうことで、素晴らしい講演を聴くことができるでしょう。

RYLA 地区および国際ロータリーの青少年保護方針

RYLA参加者の安全と福利を守ることは、国際ロータリーの最優先事項です。すべてのロータリー関係者がロータリーの青少年保護方針を遵守する必要があります。地区ガバナーや地区危機管理委員会と協力し、国際ロータリーや地区が定めている青少年保護方針やリスク管理方針を熟知かつ遵守し、必ず実施してください。

RYLA 危機管理

危機や緊急事態はいつ起こるか分かりません。各地区が危機管理計画を立ておく必要があります。

地区の危機管理計画を確認し、危機の際に取るべき行動についてスタッフへの研修を行いましょう。この研修には、各実行項目の責任者、連絡手順、救急医療機関への連絡方法なども含めてください。

RYLA 青少年と接する際の行動規範に関する声明

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。ロータリー会員、そのパートナー、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは心理的な虐待から安全を守るため、最善を尽くさなければならない。

基調講演・特別講演

RYLA Rotary

青少年保護方針の作成

包括的な青少年保護方針を作成することで、誰にとっても安全な行事を計画することができます。

まずは、委員会メンバーが国際ロータリーの青少年保護方針を理解し、実践できるようにしましょう。「ロータリー青少年保護の手引き」を確認し、ラーニングセンターのオンラインコース「青少年プログラム参加者の保護」をご利用ください。

委員会が独自に設ける方針は、国際ロータリーの青少年保護方針に沿う必要があります。

青少年保護に関する法律をしっかりと確認し、必要に応じて、委員会が作成する青少年保護方針に、これを反映させましょう。また、青少年活動を行っているほかの地元団体に相談し、参加者の保護のためにどのような取り組みをしているのかを教えてもらうのも一つの案です。

RYLA Rotary

委員会が独自の青少年保護方針を作成する場合、RYLAの方針には次の点を含めてください：

- ・行事のプログラム、会場、旅程、宿泊施設、プログラム主催者の連絡先を、出発前に参加者の親または法的保護者に通知する必要があること
- ・青少年と関わるカウンセラーの研修
- ・文書の管理と機密情報の保管方法
- ・参加者の親／法的保護者による書面での参加許可の収集・保管方法
- ・虐待またはハラスメントの報告と調査の指針
- ・適切／不適切な行為、および適切な罰則に関する方針
- ・保護者や親、参加者、関係者に青少年保護方針を通知するためのコミュニケーション計画

RYLA Rotary

国際ロータリーは、虐待やハラスメントに関するすべての申し立てを深刻に受け止めます。

ロータリーは、虐待またはハラスメントの疑いをかけられた人、罪を認めた人の記録を保持し、これらの人の青少年プログラムへの参加やクラブ入会を禁止しています。

この情報は、必要としている他のロータリー地区とも共有されます。

RYLA Rotary

リスクの管理

賠償責任保険

賠償責任保険は過失を訴える賠償請求や訴訟から、委員会や参加ボランティアを守るものです。

危機管理委員会に相談し、適切な補償額の保険に加入してください。

対人・対物賠償責任を含む保険に加入すべきです。

RYLA Rotary

危機管理計画

危機管理計画を立て、緊急時に参加者を守る具体的な手順を決めておく必要があります。

危機が起きた場合、最も大きな被害を受けるのは青少年であるため、リスクを減らすための対策を講じ、必要なときに迅速に行動できるよう備えることが重要です。

あらゆる緊急事態を想定するのは難しいのですが、少なくとも次の事態に対する手順を作成しておきましょう。

RYLA Rotary

危機管理計画

事故
身体的健康に関わる緊急事態
メンタルヘルスに関わる緊急事態
ハラスメント
自然災害
パンデミック
犯罪や暴力
行方不明または死亡

RYLA Rotary

危機管理計画の作成の手順：

危機管理チーム(危機管理委員会)を設置する
起こりうるリスクを想定する
計画と行動手順を作成する
緊急事態の通知計画を作成する
計画を共有する
専門家に相談する

RYLA Rotary

RYLA実施後の評価

時間をかけてプログラムを振り返り、成果の評価を行い、その結果を今後の改善に役立てましょう。

どの程度成果を得ることができたかを十分把握するには、参加者からフィードバックを集める必要があります。

RYLA Rotary

評価結果を将来のプログラムに生かす

RYLAに関する意見や感想を集めたら、その結果を今後のプログラムの改善に生かします。委員会の会議を開き、アンケート結果データ、記録したコメントを分析しましょう。

分析の際には、以下の点に留意します：

- ・傾向やテーマ
- ・特に好評だったワークショップや活動
- ・特に好評だった／低評価だった講演
- ・RYLAの内容、諸手配、宿泊施設において好評だったこと
- ・不十分だったこと

評価結果を基にして、次回のRYLAに向けた行動計画を立てましょう。集まった情報を参考にして毎年カリキュラムを見直すなど、参加者の期待に応えられるRYLAを実施するために結果を生かすことが重要です。

RYLA Rotary

ロータリー思想は未来を夢見る思想です。
ロータリアンは理想主義者なのです。

ロータリーの理想主義は、
ただひたすらに種を蒔く、
そしてロータリーをShareするのです。

RYLA Rotary

この言葉は、
ロータリーの思想やRYLAの思想と
共通の境地にある言葉です。
RYLAで蒔いた種が若者達の心に
いつか芽生えるかも知れない。
例え芽が出なくても、ただひたすら
種を蒔く。
そして、未来に夢を託す。
これがRYLAの思想なのです。

RYLA Rotary

2000・04年度ロータリー財団管理委員
2001年RI/RYLA委員会委員長
2001年サンアントニオ国際大会委員長
アーヴィング・J・ソニー・ブラウン氏

「献身、情熱、そして愛が
RYLAの核心であり、
ロータリーの未来を確実に
する最も素晴らしい投資です」



世界初の国際RYLA開催にあたりRYLAの真髄は今井鎮雄顧問が、現場の技術的な事は私たちがお話しをし、初めての国際RYLAがサンアントニオで開催されたのです。

RYLA Rotary

たとえ明日が世界の
最後の日であっても、
私は今日も
林檎の木を植える

マルティン・ルター

RYLA Rotary

ロータリーは、未来を夢見る思想であり、
ロータリーの理想主義は、
何ものをも求めず、
ただ、ひたすらに未来のために
種を蒔くことです。
ロータリーの役割は、結果を求めず、
ただひたすらに種を蒔くことであります

ロータリーとしては、受講生が気付く、そのための種を蒔いておこう。その種が芽生えるか否かは、私達が信頼した彼等彼女等に委ねよう。温かく見守って行こう。そして未来に期待をしよう。これがRYLAの趣旨です。

RYLA Rotary

今、ロータリアンも
ライラリアンも一緒になって
種をまく時です

RYLA Rotary

ご清聴
ありがとうございました

またお目にかかる日を楽しみに

三木明

基調講演・特別講演

特別講演「RYLA の意義と運営」



Eibun Yasuyuki
安行 英文

所 属

D2680 三田ロータリークラブ

職業分類

学習塾

略歴 / ロータリー歴

- 1978 京都外国語大学ドイツ語学科卒
- 1978-79 日泰寺専門僧堂安居下山
- 1980 佛教大学教育学部初等教育学科卒（通信）
- 1990 （曹洞宗）興聖寺代表役員就任
- 1995 三田ロータリークラブ入会
- 1998 （曹洞宗）観世寺代表役員就任
- 中学校英語免許取得、小学校教員免許取得
- 1999-2000 RYLA ワークショップ部門別委員
- 2001-02 クラブ幹事
- 2004-06 新世代委員会副委員長、ローターアクト小委員長
- 2006-07 クラブ会長
- 2007-11 年 新世代委員会委員長
- 2011-12 クラブ会長
- 2013-15 新世代交換委員長
- 2015-17 国際奉仕委員会副委員長、世界社会奉仕小委員長
- 2017-18 学友委員会委員長、国際奉仕委員会副委員長、世界理解小委員長、危機管理委員会副委員長
- 2018-19 国際奉仕委員会委員長、学友委員会委員長
- 2019-20 阪神第3グループガバナー補佐
- 2020-21 国際奉仕委員会副委員長、国際奉仕小委員長、RLI 委員 (DL)
- 2021-22 国際奉仕委員会委員長、学友委員会委員長、RLI 委員

RYLA
(ロータリー青少年指導者養成プログラム)

・ Rotary Youth Leadership Awards

- 1) ロータリーが若者を尊重し、かつ、若者に関心を抱いていることを一層明らかにすること。
- 2) 選ばれた若いリーダー、およびリーダーとなる素質のある若者に研修を継続させ、責任ある有能なボランティアの若いリーダーとなるよう奨励し、援助すること。
- 3) 若者による若者への絶えざる、力強いリーダーシップを奨励すること。
- 4) 若者のリーダーとして地域社会に尽くしている多くの若い人の優れた実質を公に認めること（2017 年 1 月理事会会合、決定 87 号）。

1

始まりは？

・ 1959年にオーストラリアのクイーンズランドで初めて実施されたRYLAは、ビクトリア王女の訪問を記念して地元青年たちによって行われた祭行事でした。以来、RYLAは、青少年の可能性を信じるロータリアンによって続けられ、次世代のリーダーとなる青少年が、自己を発見し、スキルを身につける機会となりました。1971年に国際ロータリーによって正式に採用された

2

どんな方法があるのかと考えた

・ 「組織キャンプ」
・ 加えて「グループワーク」を取り入れる

3

組織キャンプとキャンプの違い

<p>・ キャンプ</p> <p>①遊び ②リクリエーション ③集団訓練 ④期間は無期限に短い</p>	<p>・ 組織キャンプ</p> <p>①人の成長を意図 ②期間、方法、指導者、運営は一定の水準に到達 ③指導者とカウンセラーがいる</p>
---	---

4

1960～70年代のアメリカの問題

それまでの学問的心理学からグループワークへ
狂気の文化、魔女の存在
ホメオパシーなど、まがいの文化
反戦、ヒッピー
デューイなどの教育面での人材育成、青少年の人間形成
キャンプ事業に教育キャンプを取り入れ、人間性の向上を目指す
ビート族(セックス、酒、ペンセドリン、ジャズ、利己主義)
権威

5

ライラの目指す方向

・ 人間の成長発達を意図する

・ 全人的な成長発達が目的

6

ライラで強調したい目的①

・ パーソナリティの望ましい方向への変容に寄与することが前提

・ 受講生の持つ、広範で多様な欲求や課題に応える

7

ライラで強調したい目的②

・ 環境の良い場所で、よき訓練された指導者の管理のもと、共同生活、グループ生活を体験する場

・ グループ生活において創造的教育体験を体得させ、知的、身体的、社会的および精神的成長に十分寄与するためにあらゆる環境を利用

8

基調講演・特別講演

ライラの3要素

- ・環境
- ・指導者
- ・目的・・・小グループ単位とする共同生活を通して創造的生活体験によるパーソナリティの全面的な成長発達を目的

9

ライラを満たす条件

- ・①組織的な生活をするための共通の理念目標を持つ
- ・②その目標達成のためによく訓練された指導者がいる
- ・③目的達成のために計画されたプログラムがある
- ・④民主的で組織的な共同生活の体験(為しつつ学ぶ)
- ・⑤全人教育であり、小集団による創造的教育体験

10

RYLAと
グループアプローチ

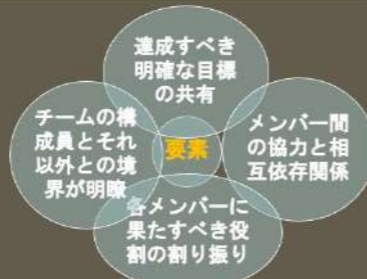
18

グループワークを取り入れる

- ・小集団を意図的に用いて、パーソナリティの好ましい方向への変容に働きかける方法をとる。
- ・そこでカウンセラー制度をロータリーのライラに取り入れている

11

チームに備わっているべき要素



12

エンカウンターグループとは

カール・ロジャーズによって1940年代後半に始められたグループ体験が源流

その後1960年代の人間性回復運動で展開

19

エンカウンターグループの構成

- ①通常カウンセラーと10名から15名ほどのメンバー
- ②スタッフと呼ばずカウンセラーと(促進者)と呼んでいる。
- ③できるだけバラエティの富むかたちでグループを構成する。
- ④カウンセラーとなる人に対して特別の資格・条件は設けていない。
- ⑤時間は3泊か4泊あるいは2泊。場所は「文化的孤島」

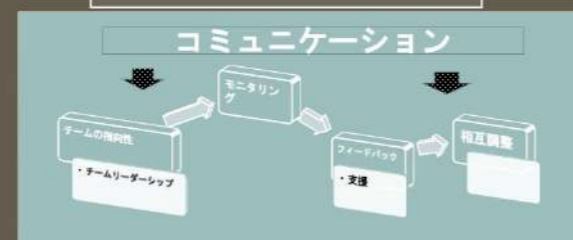
20

チームの概念モデル



13

チームワークの概念



14

グループプロセス

- 段階1 当惑・模索
- 段階2 グループの目的・同一性の模索
- 段階3 否定的感情の表明
- 段階4 相互信頼の発展
- 段階5 親密感の確立
- 段階6 深い相互関係と自己直面

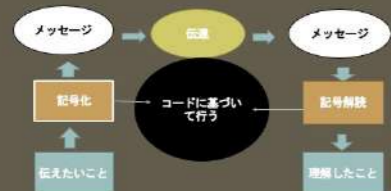
21

- A 自由で自発的な発言の活発さ。
- B かなり重要な自己の問題や内面を語ったひとの数
- C 語られた話の、語った人にとっての重要性、深さ
- D 他者に対する傾聴。
- E 他者に対する自由で自発的なフィードバック
- F 発言の率直さ

グループの
発展段階
尺度

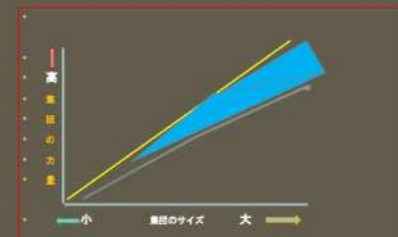
22

対人コミュニケーションの成立値過程



15

プロセス・ロス



16

グループの
発展段階
尺度

- G カウンセラーがメンバーのひとりとして動ける
- H グループに対してかなり満足を持ったひとの数
- I グループに対する満足度の深さ
- J グループの安心感・心地よい雰囲気・相互の信頼
- K グループの親密感
- L グループのまとまり感と連帯感

23

カウンセラーの
哲学・態度

- ①できるだけ注意深く耳を傾ける(風土づくりの機能)
- ②ありのままに受け入れる(グループの受容)
- ③グループに関係なく、私個人としては受け入れる(個人の受容)
- ④個人が伝えようとする正しい意味を理解する(共感的理解)
- ⑤自発性が一番大切で欠くことの出来ない要素だと考える(計画・演習を避ける)
- ⑥グループプロセスはメンバーの間から自然に出てきたものでなければならぬ。
- ⑦間違っただけを示す時にも、グループの示す知恵を自分自身よりも信頼する。

24

基調講演・特別講演

共通項

ライラとグループアプローチ

- 全人教育のいとなみ
- パーソナリティの望ましい変容にも寄与する。
- 参加者のもつ、広範で多様な要求や課題に応えることができる。

25

RYLAの定義

- ①組織的な生活をするための共通の理念目標を持つ
- ②その目標達成のためのよく訓練された指導者がいる
- ③目的達成のための計画されたプログラムを持つ
- ④民主的で組織的な共同生活の体験
- ⑤したがって、宿泊施設にこだわらない。

26

RYLAの指導体制 役割分担

- 01 B:プログラム・ディレクター(ディーン)
- 02 C:カウンセラー
- 03 D:医師・看護師

33

RYLAのサイクル

計画 実施 評価

34

RYLA=目的

- ①指導者としての人間性形成
- ②非日常的な環境で創造的で人間らしい生活を創造する
- ③小集団の集合体としての共同生活の形をとることで、仲間との楽しみ、喜びの交歓
- ④自己と他者の発見
- ⑤他者のために働くことを通して得る感動
- ⑥非日常的な経験が日常性を振り返り、それを変革していく原動力を導き出す。

27

ゆえに 単位は?

① 12人以内の小集団で行う

② 興味あるプログラムを媒体に、自己実現と相互作用を側面から促す、有能なロータリアンがカウンセラーやプログラム・インストラクターになるのが不可欠

単位は?(N-1) × N ≤ 144

28

RYLAの計画

- ①ライラの目標・方針の検討・決定
- ②指導者の選任(カウンセラー)
- ③場所・期間決定
- ④受講生の募集
- ⑤事前研修
- ⑥ライラプログラムの検討・決定
- ⑦ライラ用品の調達
- ⑧ライラ経費の決定
- ⑨輸送交通機関の決定
- ⑩受講生の募集
- ⑪グループ分け
- ⑫事前最終確認

35

RYLAの指導者とは

ライラの指導者は「先生」ではない。

「権威」や「お説教」によって受講生を教え、導くのではない。

36

RYLAの計画

- ①組織的な生活をするための共通の理念、目的を持つ。
- ②目標達成のためのよく訓練された指導者がいる。
- ③目標達成のための計画されたプログラムを持つ。
- ④民主的で組織的な共同生活の体験(なしつつ学ぶ)
- ⑤宿泊施設は文化的孤島であれば、どこでもよい。

29

RYLA実施の方針

- ①ライラの方針の樹立
- ②ディーン(ライラを実行する責任者)の選任
- ③カウンセラーの養成(事前の打ち合わせと研修)
- ④プログラムの計画と開発
- ⑤安全管理
- ⑥資料保管・記録

30

強調したい指導者の人間性

- あるがままの受け入れ
- 達成度で評価しない
- 個々の多様性を認める
- 評価は慎重に
- 個人の特長・多数の他と異なる独自性を認める
- 共に活動を楽しむ

37

RYLA指導者の役割と責任

- ①共に活動すること
- ②観察すること
- ③援助すること
- ④記録と報告

38

RYLA 実行する上の点検

- 柔軟性と変化対応
- 役割の明確化
- 指揮系統の一本化
- 情報交換、関係の円滑と協力
- すべてが何らかの関わり

31

RYLAの指導体制 役割分担

- A:ディレクター(青少年委員長(ライラ委員長兼ねる))
- B:ライラに係わる全ての人間の成長を図る
- C:カウンセラーの養成と指導監督
- D:受講生の健康と安全を守る
- E:プログラム立案
- F:施設の安全管理

32

RYLAプログラム全体としての価値

- 「参加者の皆さんが成長すること」それも「全人的な成長」
- そのための具体的な手段・方法がライラ
- 受講生の成長の過程はあらゆるところにある
- 数日間にとつた生活全体が、活動も体験も自由時間も含めて、ライラプログラムとして重要

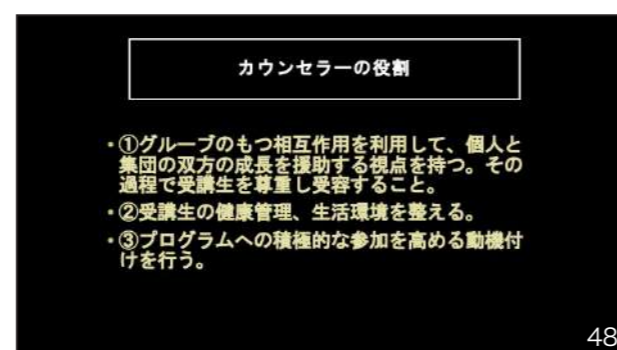
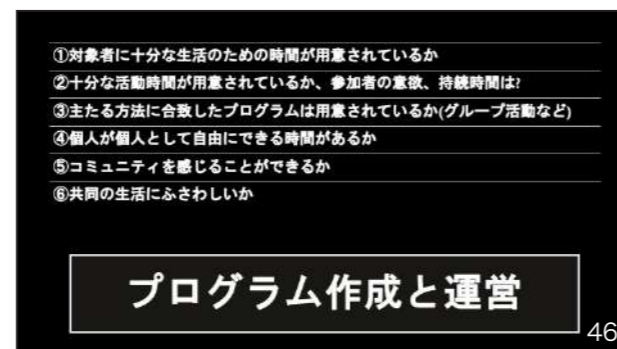
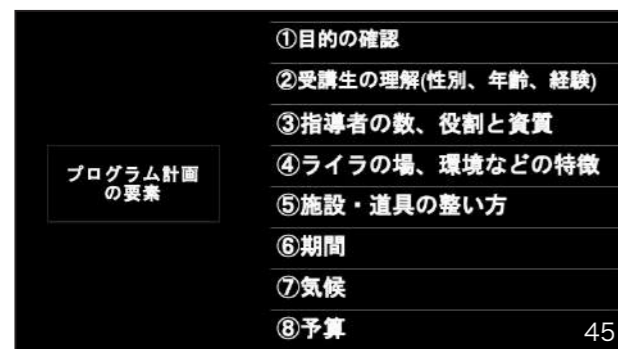
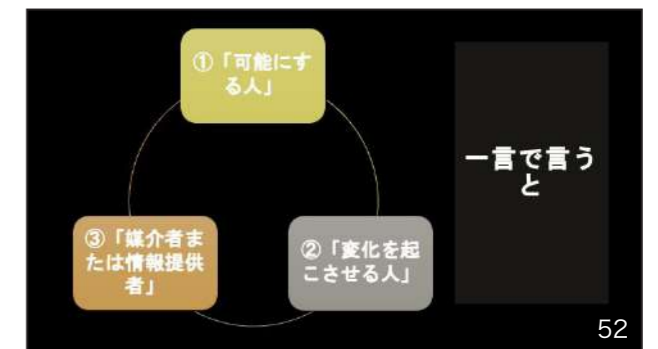
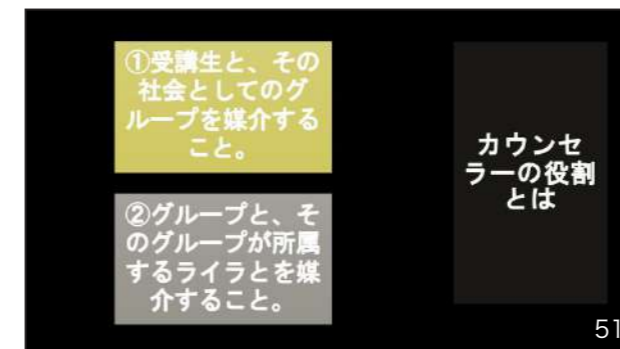
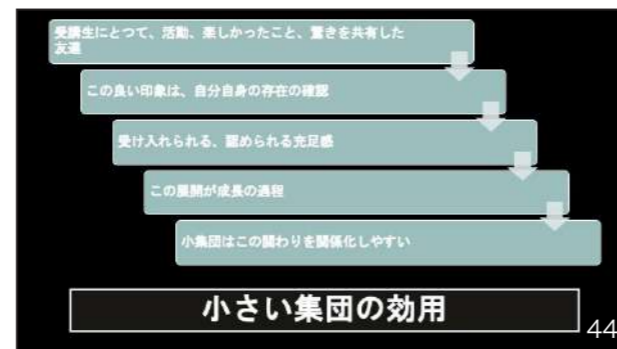
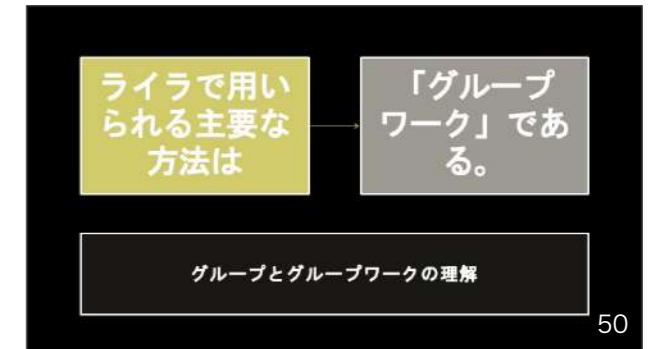
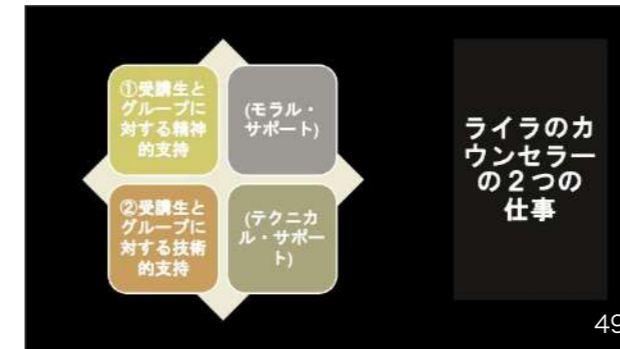
39

RYLA最大の特徴(単なる研修と違う)

- ①活動すること
- ②奉仕すること
- ③自由であること

40

基調講演・特別講演

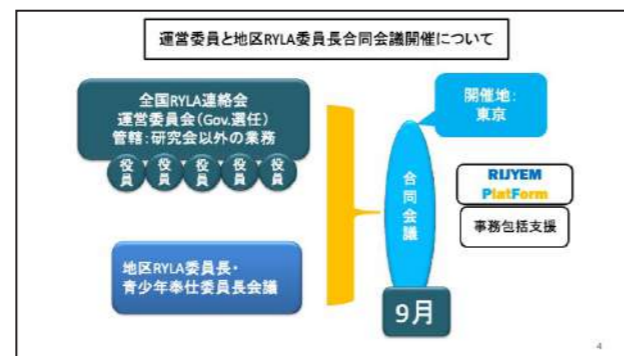


青少年奉仕委員長会議

Rotary The 15th Japan RYLA Conference in SAPPORO

第15回全国RYLA研究会札幌会議
青少年奉仕委員長会議

2023.5.20-21
札幌グランドホテル



次回・次々回全国RYLA研究会開催地区について

	ホスト地区	開催地	開催日	開催場所	備考
15回	D2510	札幌市	2023.5.20-21	札幌グランドホテル	
16回	D2530	郡山市	2024.6.8-9	ホテル華の湯	磐梯熱海温泉
17回	D***	***	2025.***	***	

全国青少年奉仕委員長（RYLA 委員長）会議・議事録

全国青少年奉仕委員長会議 (RYLA 委員長) 会議・議事録

- 日時：2023年5月20日（土）16：00～17：00
- 会場：札幌グランドホテル本館2階金枝
〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西4丁目
- 議事録
 - 議長選出
全国 RYLA 連絡会規約第 9 により羽部大仁実行委員長は、RIJYEM から議長を選出するように指示をした。RIJYEM は、議長に RIJYEM 研修部門委員 RYLA 担当の田中賢一氏（D2680）を選出し羽部実行委員長に報告。羽部実行委員長は、承認を諮り参加者全員の賛同を得た。合わせて、議事録作成は、RIJYEM 事務局を指名した。
 - 全国 RYLA 連絡会規約概要説明
議長は、議事に入る前に、昨年度の第 14 回 RYLA 研究会鳥取会議にて採択された「全国 RYLA 連絡会規約」についての説明を黒田建一（RIJYEM 研修部門委員 RYLA 担当）氏に依頼した。
 - 議事
 - 3-1：「運営委員会役員選任について」
議長は、規約第 12（6）の役員選任の方法等については、次年度ホスト地区実行委員長及び黒田氏並びに議長に一任する案を示し、承認を全員に諮ったところ全員異議無く、本案は可決確定した。
 - 3-2：「運営委員と地区 RYLA 委員長合同会議開催について」
議長は、運営委員と地区 RYLA 委員長合同会議開催について、2023 年 9 月に開催する案を全員に諮ったところ全員異議なくこれを了承し、本案は可決確定した。その際議長は、開催日時及び会場については RIJYEM に委任した。
 - 3-3：「次年度・次々年度全国 RYLA 研究会開催地区について」
議長は、次年度 2023-24 年度の全国 RYLA 研究会開催地区について、RI 第 2530 地区がホストを務める案を示し、全員に諮ったところ全員異議なくこれを了承し、本案は可決確定した。尚、次々年度 2024-25 年度のホスト地区については、保留とした。続いて、ホスト RI 第 2530 地区実行委員長芳賀 裕 PDG より受諾宣言を得た。

議長は、以上をもって第 15 回全国 RYLA 研究会青少年奉仕委員長会議に関する議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

以上の決議を明確にするために、議事録を作成する。

2023 年 5 月 20 日

議長 RIJYEM 研修部門委員 RYLA 担当

田中賢一

第 15 回全国 RYLA 研究会実行委員長

羽部大仁

【参考資料 1】

【参考資料 1】

全国 R Y L A 連絡会規約

1. 目的

本会は国際ロータリーの内日本国の各地区（以下、単に「各地区」という）の R Y L A 関連委員会の連絡網を形成することを目的とする。

2. 研究会

各地区の R Y L A セミナーを中心とする R Y L A 活動の情報を相互に交換する為、原則として毎年度 1 回全国 R Y L A 研究会（以下、「研究会」という）を開催する。

3. 開催主体

- （1）研究会は地区単位により開催する。但し、複数の地区の共同開催を妨げない。
- （2）開催地区は開催年度（期間はロータリー年度と同じ）の間、本会の事務局としての役割を果たす。

4. 研究会の内容

- （1）研究会の内容はロータリー章典の趣旨に沿って開催地区が決定する。
- （2）前項の「内容」にはプログラムの策定、活動組織体の設立等研究会開催に必要な事項を含む。

5. プログラムの継続性

研究会開催地区は、プログラムの決定に当たり、前年度を始め過去の研究会の成果を尊重する。

6. 実行委員会

- （1）開催地区は、研究会の開催に当り実行委員会を設置し、研究会のプログラムの立案をし、必要に応じ他地区に連絡をする。
- （2）実行委員会の設立については全国レベルと地区レベルとを別組織とすることができる。
- （3）全国レベルの実行委員会の設立に当り、本連絡会は、日本国内選出の現 R I 理事、R I 理事会理事経験者への協力を要請する。

7. ロータリーファミリー

- （1）研究会開催に当り、R Y L A 学友会、ローターアクト等ロータリーファミリーの参加が奨励される。
- （2）ロータリーファミリーが参加したときは、充分の危機管理態勢が義務付けられる。

8. 委員長会議

研究会プログラムの一部に各地区の青少年奉仕委員長、R Y L A 委員長、もしくはその他の青少年活動関連委員長による委員長会議の開催を含むものとする。

9. 会議開催方法

委員長会議の議長は原則として開催地区から選出する。但し、必要のあるときは、開催地区は地区を問わず副議長その他の役員を選出することができる。

10. 議案

- （1）議案の内には次年度開催地区の決定が含まれるものとする。
- （2）次年度開催地区について、開催地区には、全国レベル実行委員会、他地区と協力して、事前に立候補地区の有無を調査することが望まれる。

11. 議決

議決の決定は出席地区毎に一票とし、その過半数の支持を必要とする。

12. 運営委員会

- （1）本規約で定める研究会以外の業務を遂行する為、本会に運営委員会を設置する。
- （2）年度は毎年 7 月 1 日から翌年 6 月 30 日迄とする。
- （3）運営委員会の委員は、本会に参加する地区が地区毎に 1 名を選任する。
- （4）委員の任期は各地区毎に定める。
- （5）運営委員会の委員長は、原則として研究会を開催する地区の委員とする。
- （6）委員長は毎年度運営委員会の役員 5 名程度を選任する。
- （7）運営委員会はその運営について、運営委員会規則を設けることができる。

13. R I J Y E M

本会は、各地区間の連絡について R I J Y E M に協力を求めて、相互に協働し、その連絡体制の維持に努める。

14. その他の全国的活動

各地区が R Y L A 活動について全国レベルでの活動を行うときは、本会の関与を求めることが奨励される。

15. 規約の変更

- （1）各地区は、必要があると認める時は、本規約について変更を求めることができる。
- （2）本規約の変更については、事前に発議の上委員長会議において審議し、出席委員長（各地区 1 票とする）の 3 分の 2 以上の支持があったとき可決されるものとする。

付則：2022 年 5 月 21 日成立（第 14 回全国 RYLA 研究会・鳥取会議）